

自己紹介

本日は貴重なお時間を頂戴し、ありがとうございます

大正大学 地域創生学部 教授 浦崎 太郎

【貢献領域】

「自分らしく社会に参加できる若者」を育む高校への改革支援を通じた地域創生を志向し、高校と地域の協働に関する政策提言から現場への実務支援までワンストップで対応。

【略歴】

1965年3月 岐阜県岐阜市生まれ

1989年3月 広島大学大学院教育学研究科修了（理科教育学）

【職歴】

1989年4月～2017年3月 岐阜県立学校 教諭（中学校教諭1年・県博物館職員4年を含む）

2017年4月～2020年3月 大正大学地域構想研究所 教授

2020年4月～ 現職

【主な役職】

2015年5～12月 文部科学省 中央教育審議会 学校地域協働部会 専門委員

2018年5月～ 文部科学省 高等学校教育改革に関するアドバイザー

2019年1月～ 同省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」企画評価会議 座長

2019年9月～ 全国高校生マイプロジェクト実行委員会 顧問

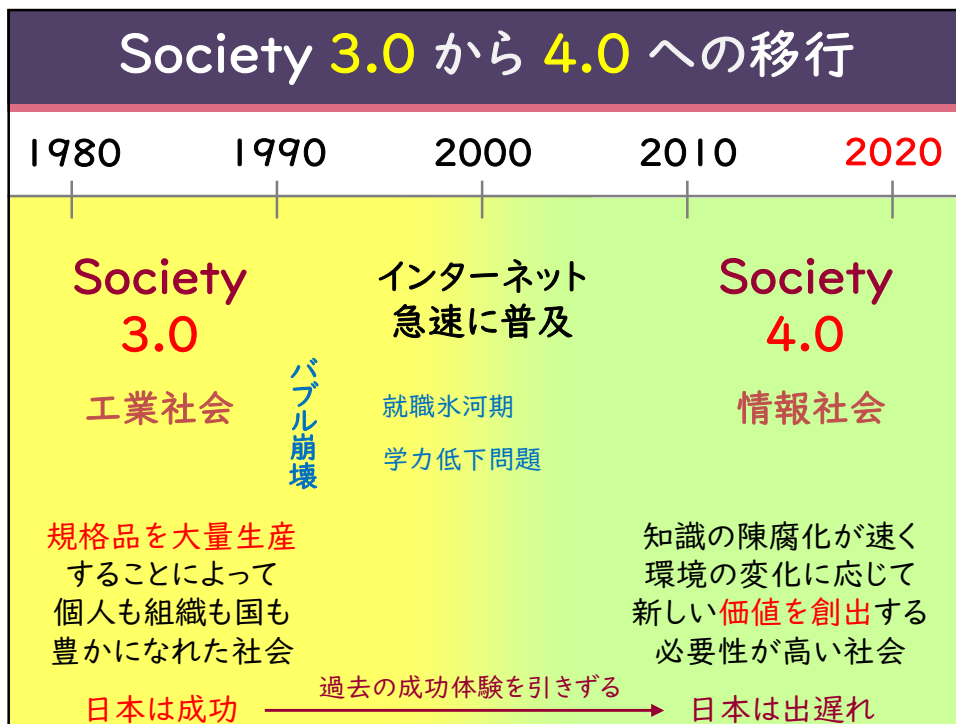
2020年4月～ 総務省 地域力創造アドバイザー

1

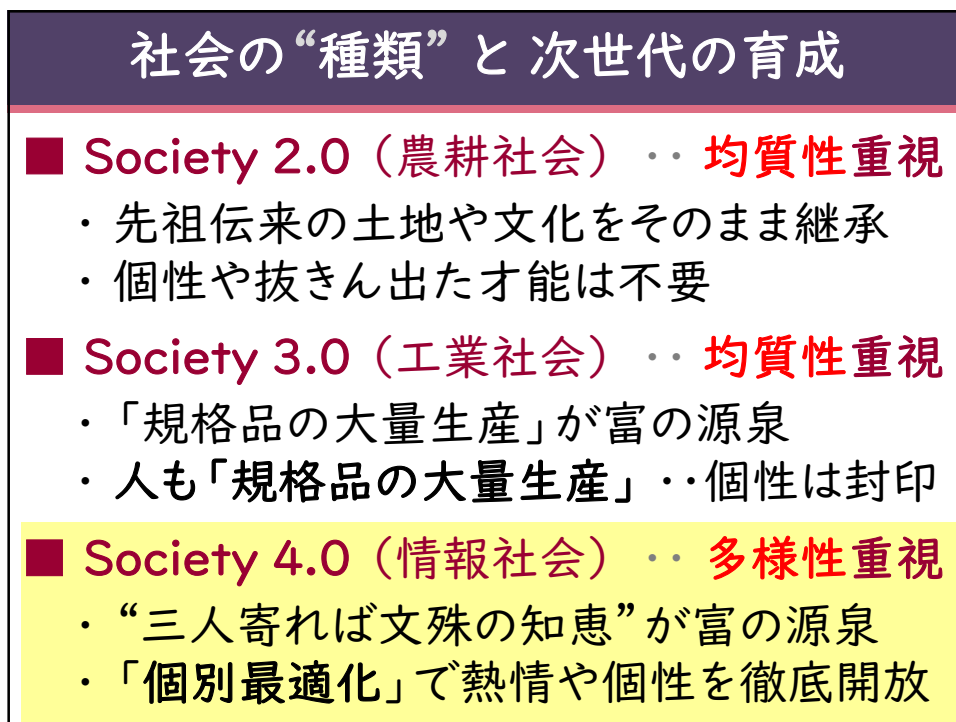
これから お伝えすること

- コロナ禍の今だからこそ
「探究」や「地域協働」を推進する必要性は高い
そして今は、千載一遇のチャンス！
- 鍵は「大人の探究コミュニティ」確立 ・教職員と地域諸氏
・学校の内外で
その結果、コンソーシアムが機能
- 今後「探究」や「地域協働」は全ての高校に必要
本日の出席校は先駆者たる使命感とプライドを

2



3



4

Society 2.0→4.0の移行例（北海道浦幌町）

【副業×地方創生】東京の企業人が十勝の浦幌町で1年間通いながら地方創生をしたら皆で会社をつくったりとてもワクワクしたので そのワクワクを伝えたいと思って企画してみました。

“福業”で地方創生シンポジウム

11.27_{wed} 19:00- / Nagatacho GRiD



東京の大手企業から社員を副業で迎えて地方創生

5

Society 2.0→4.0の移行例（北海道浦幌町）



地元・浦幌の関係者（林業・まちづくり）と副業で十勝に来訪する大手企業社員で「古材風新材」を販売する会社を設立



異質な者が出会い、対話を深めることで、強みを活かしあい、弱みを補いあう道が開け、新しい価値の創出に成功した・・・各々単独では無理

6

高校生に対する意識・態度

■ Society 2.0

- ・人は生まれ育った地で生きていくものだ。
- ・地域の担い手は地元出身者だ。
- ・進学や就職で外に出すな！
- ・長老の言うことを聞け！
- ・今まで通りのやり方に従え！
- ・勉強させるな！・・・出たら帰ってこないから
- ・郷土愛を植え付けろ！
- ・外に出ても戻って来い！
- ・言うことを聞く者なら 外来者は歓迎！

7

高校生に対する意識・態度

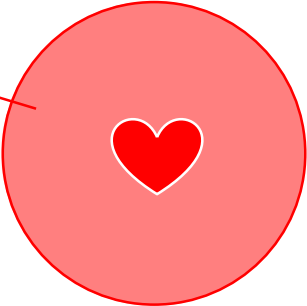
■ Society 4.0~

- ・生きる道は“三人寄れば文殊の知恵”だ。
- ・自分ならではの才能を存分に伸ばせ！
- ・最大限に成長&表現できる環境を選べ。
- ・才能をフルに活かせるところで生きよ。
- ・専門性を高めて広い世界を渡り歩け！
- ・地元に戻ることは優先しなくてよい。
- ・この地で成長&表現したい若者は大歓迎！
- ・この地にある資源を活かして、
何かを一緒に創り出していける人物は大歓迎！

8

個別最適化と地域課題解決

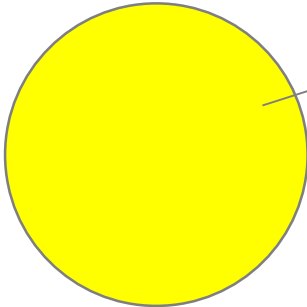
個別最適化
(問いに当事者性)



“自分らしく”

9

個別最適化と地域課題解決



地域課題発見・解決
(地域素材×探究能力)

“社会に参加する”

10

個別最適化と地域課題解決

個別最適化
(問いに当事者性)

ふるさと教育

地域課題発見・解決
(地域素材×探究能力)

地域との協働による高等学校教育改革推進事業

“自分らしく社会に参加する”

11

「地域との協働による高等学校～事業」の重要性

新・学習指導要領の軸となる「育成をめざす資質・能力」の三本柱

- ① 何を理解しているか 何ができるか (知識・技能)
- ② 理解していること・できることをどう使うか (思考力・判断力・表現力)
- ③ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか (学びに向かう力・人間性等)

“自分らしく社会に参加する”
日本中の高校生に届けるべき学び

高校教育改革の本流
探究や地域連携が好きな高校だけの事業ではない = 全ての高校に必要

12

コロナ禍によって分かったこと

- コロナ禍に伴う臨時休校によるダメージが深刻だった。
- ↓ 対照的に
- 探究や地域連携に情熱を注いできた高校では臨時休校によるダメージが小さかった。
- ↓ より具体的には
- 臨時休校中も生徒は主体的に学びつづけた。
- 自発的に「コロナ禍に立ち向かう」生徒さえ現れた。
- 突然の臨時休校により、改革の進捗度が表面化した。
- 高校教育改革とコロナ対応はセットで考える必要性。

13

これからの教育

今こそ地域連携による教育改革のチャンス

大正大学 地域創生学部 地域創生学科 教授 浦崎 太郎

はじめに

文科省「地域創生」を立ち上げた背景には、普通科生の学習意欲や達成感が十分に高まっていない傾向。男女を問わず、安易に合格できるAO入試や編入入試で入学を決め、卒業まで遊び回す者が多くては、地方創生への貢献が、卒業後など、地域の課題を解決する力に大いに期待がもたれている。これに対して、この数年、学校が実施される各種教育の質を向上させるべく、社会参画に期待を寄せていくべきだと考えられている。これは、社会参画に期待を寄せていくべきだと考えられている。これは、社会参画に期待を寄せていくべきだと考えられている。

推進事業の経緯や方向性

文科省「地域創生」を立ち上げた背景には、普通科生の学習意欲や達成感が十分に高まっていない傾向。男女を問わず、安易に合格できるAO入試や編入入試で入学を決め、卒業まで遊び回す者が多くては、地方創生への貢献が、卒業後など、地域の課題を解決する力に大いに期待がもたれている。これに対して、この数年、学校が実施される各種教育の質を向上させるべく、社会参画に期待を寄せていくべきだと考えられている。これは、社会参画に期待を寄せていくべきだと考えられている。

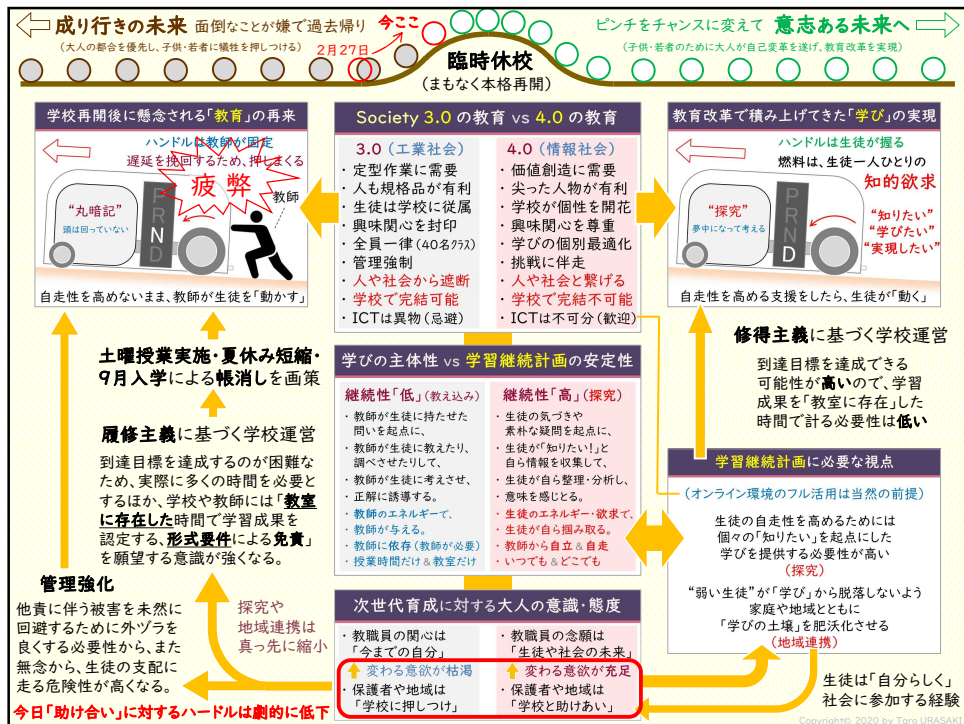
Society 3.0の教育 vs 4.0への教育

<p>3.0 (工業社会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定型的な業務 ・ 人材育成が重視 ・ 生徒は学校に定着 ・ 興味関心を伸ばす ・ 専門性(スキル)を伸ばす ・ 管理職制 ・ 人材育成が重視 ・ 学校で知識を習得 ・ ICTは補助(手段) 	<p>4.0 (消費社会)~</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個性化された業務 ・ 多様な人材が重視 ・ 生徒が個性を伸ばす ・ 興味関心を伸ばす ・ 専門性(スキル)を伸ばす ・ 柔軟な発想 ・ 人材育成が重視 ・ 学校で知識を習得 ・ ICTは不可欠(手段)
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

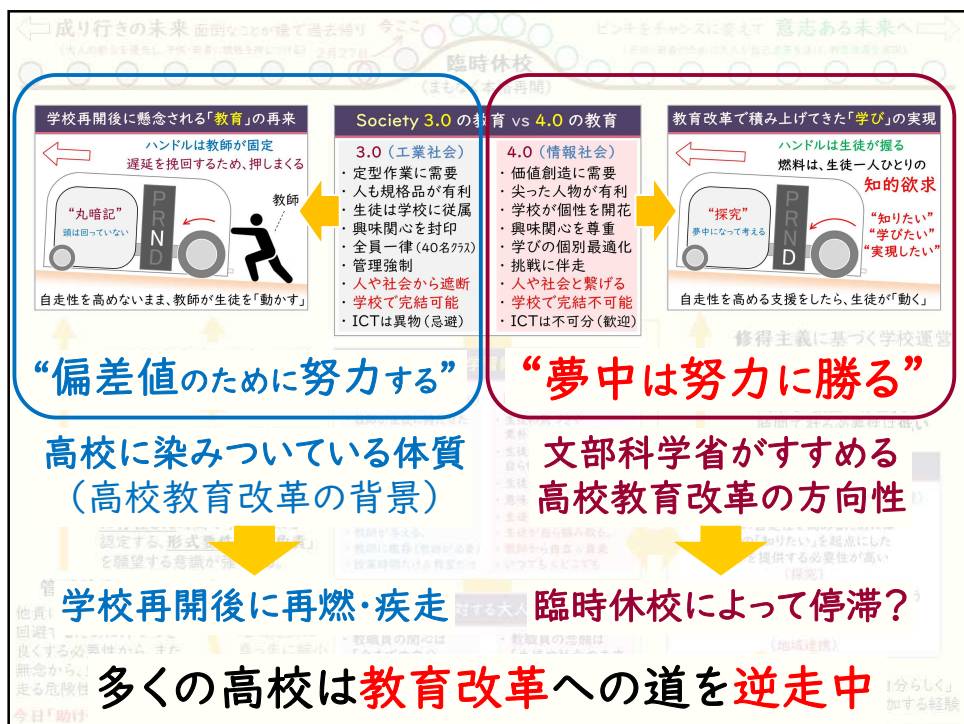
これによって、生徒は主体的に学びつづけた。自発的に「コロナ禍に立ち向かう」生徒さえ現れた。

このままの内容は 配付資料の『かわら版 vol.57』をご覧ください

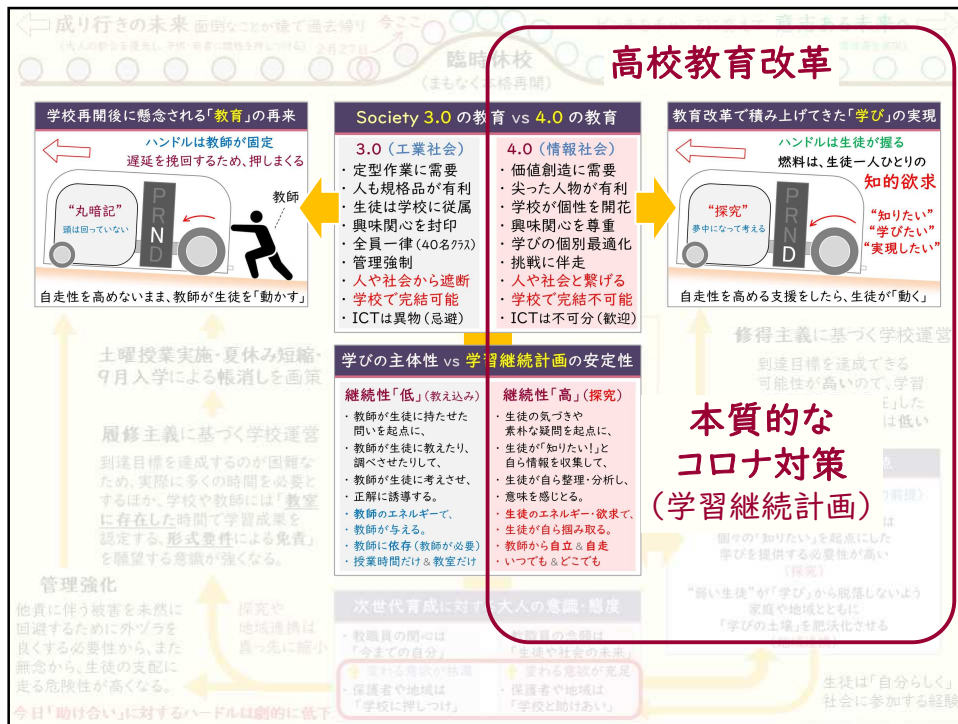
14



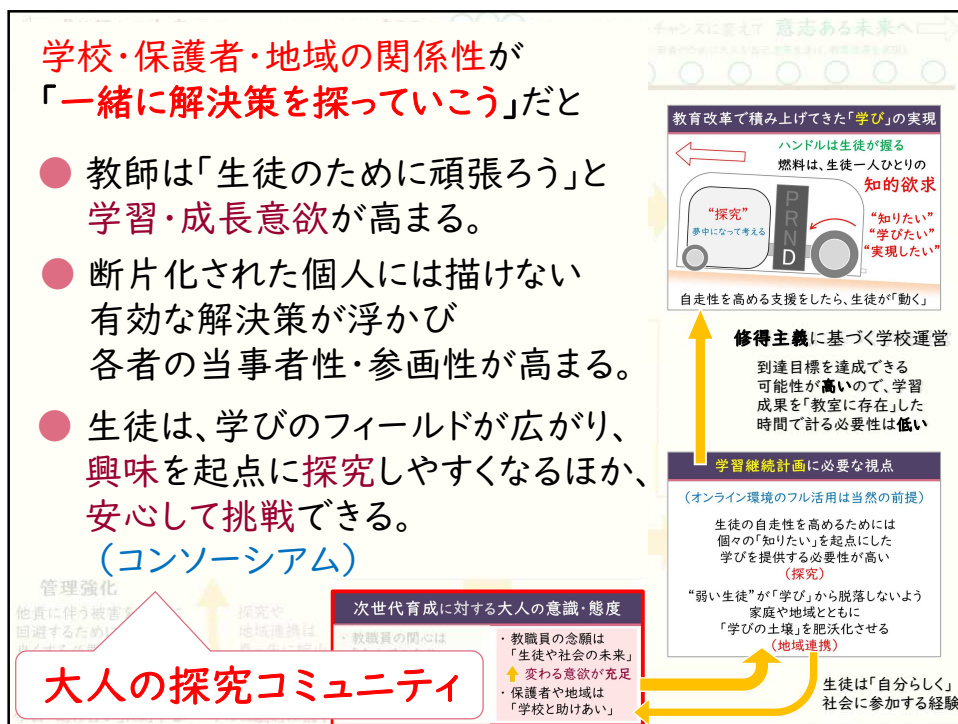
15



16



17



18

新時代の高校像と **スクール・ミッション**

中央教育審議会 初等中等教育分科会

第11回 新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会（令和2年7月17日）

「新時代に対応した高等学校教育の在り方」（論点整理）

VUCA 対応

● **スクール・ミッションや普通科改革が打ち出された文脈**

高校が“生徒に縁のある地域の多様な人々”とともに

- ・ 20～30年後、どんな世の中になるのか？
- ・ 地域をどうしていけばよいのか？
- ・ どんな次世代を育てていけばよいのか？
- ・ どのように役割を果たしあっていけばよいのか？

を探究した上で、自校が社会の未来に果たすべき使命を明確化し、各校が使命の達成に必要な教育課程を柔軟に編成できるよう、弾力化した方がよいのではないかと

21

今回 お伝えしたこと

● コロナ禍の今だからこそ

「探究」や「地域協働」を推進する必要性は高い

そして今は、千載一遇のチャンス！

● 鍵は「大人の探究コミュニティ」確立

・教職員と地域諸氏
・学校の内外で

その結果、コンソーシアムが機能

● 今後「探究」や「地域協働」は全ての高校に必要

本日の出席校は先駆者たる使命感とプライドを

22



23

文部科学省 令和2年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」
高等学校における研究開発 担当者会議（令和2年7月30日）

企画評価会議座長 挨拶

大正大学地域創生学部 教授
浦崎 太郎

24